



# Japan Transcity Corporation

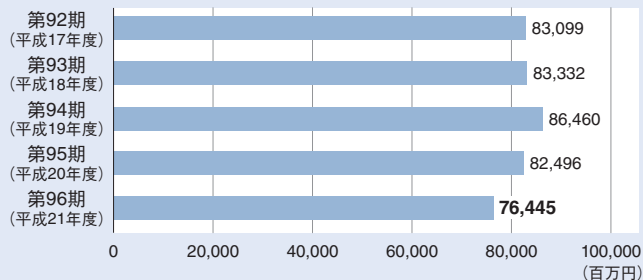
## 第96期 報告書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

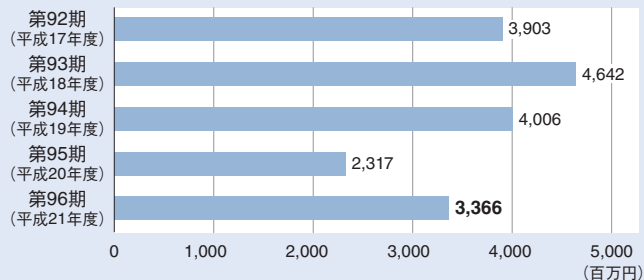
日本トランスシティ株式会社

証券コード 9310

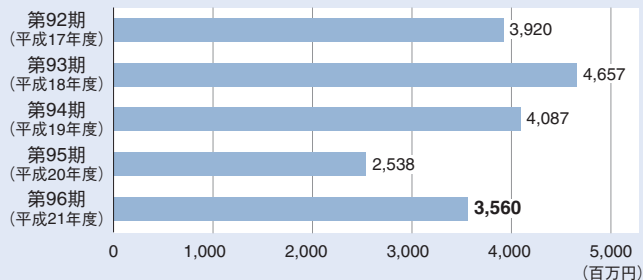
### 連結売上高



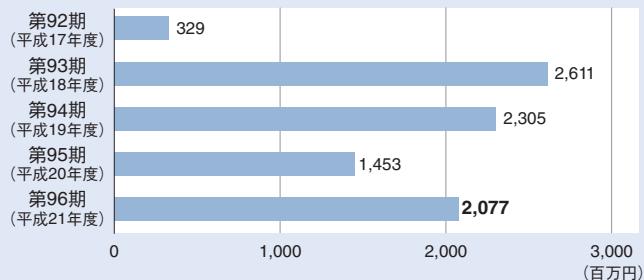
### 連結営業利益



### 連結経常利益



### 連結当期純利益



### 第96期

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(百万円)

(前期比)

|         |        |       |
|---------|--------|-------|
| 連結売上高   | 76,445 | △7.3% |
| 連結営業利益  | 3,366  | 45.3% |
| 連結経常利益  | 3,560  | 40.3% |
| 連結当期純利益 | 2,077  | 43.0% |

## CONTENTS

|                   |   |
|-------------------|---|
| 財務ハイライト (連結)..... | 1 |
| 株主のみなさまへ.....     | 2 |
| 当社グループの営業概況.....  | 3 |
| 特集.....           | 6 |
| 当社グループの概要.....    | 7 |

|                    |    |
|--------------------|----|
| グローバルネットワーク.....   | 8  |
| 財務諸表の概要 (連結).....  | 9  |
| 財務の概要グラフ (連結)..... | 11 |
| 財務諸表の概要 (単体).....  | 12 |
| 会社の概要.....         | 13 |
| 株式の概要.....         | 14 |

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、ここに当社第96期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の事業の概況につきまして報告書をお届けいたします。

## 経営環境

当期におけるわが国経済は、一昨年急激な景気の悪化から、海外経済の回復を背景とした輸出・生産の増加や景気刺激策の効果等により、ゆるやかに回復しました。特に経済の高度成長が続く、中国・アジア各国向けの輸出に牽引され、第3四半期には、設備投資が増加するなど、企業業績は最悪期を脱し、回復基調となりました。

こうした経済環境のなか、物流業界におきましては、輸出入貨物ならびに国内貨物の荷動きが改善の方向にはあるものの、本格的な回復にまでは至らず、企業間競争の激化等、厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当期における当社グループの営業概況につきましては、次頁の「当社グループの営業概況」に記載のとおりでございます。今後、物流業界では、中国・アジア各国向けの輸出等が牽引し、荷動きは、徐々に活発になるものと思われませんが、内需には依然力強さが見られないことから、一般的に本格的な回復に至るまでは期待できないものと思われます。更には企業間競争の激化などにより、物流業界を取り巻く環境は依然として厳しく、先行き不透明な状況が続くものと思われます。

## 今後の課題

当社グループでは、前期に引き続き、営業・管理体制を一層強化・充実させ、経営基盤をより強固なものとするため、下記の強化策を推進し、売上の拡大と利益の確保を最重要課題として取り組んでまいります。

<営業体制の強化策>

①提案型営業の手法により、新規顧客の開拓を積極的かつ効率的に取り組んでまいります。また、将来にわたる事業基盤強化のため、新規事業への取り組みを進めてまいります。

②物流サービスの品質向上・ローコストオペレーション体制等を実現し、顧客満足度を高めることにより、既存顧客との取引を深耕し、収益率向上に取り組んでまいります。

③環境負荷を軽減する取組みとしてバルクコンテナ輸送やグリーン物流の推進等に引き続き注力してまいります。

<管理体制の強化策>

グループ全体の業務連携を強化するため、グループ事務統括部を新設し、グループ経営基盤の強化を推進するとともにグループ全体の経営資源の効率的な活用を行い、収益率向上に取り組んでまいります。

<経営基盤の強化策>

①構築した内部統制システムを一層充実させ、リスク管理体制の強化とコンプライアンスの徹底により、グループ経営を適正に運営してまいります。

②企業の競争力の維持・向上のため、顧客企業の経営戦略に沿った物流をトータルな視点で企画・提案できる人材や、今後の海外での展開を視野に入れ、グローバルに活躍できる人材の確保・育成を計画的に進めてまいります。

## 配当について

配当金につきましては、1株につき4円の間配当を実施しておりますが、当期末の配当金は、業績を勘案いたしまして、1株につき4円50銭とさせていただきます。

これにより、当期の年間配当金は前期と同額の1株につき8円50銭となります。

今後とも当社グループ一丸となり、お客様のご期待にお応えできるサービスを提供することにより、社業の発展と経営の強化に邁進する所存であります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも格別のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月29日

取締役社長

小林長久

# 当社グループの営業概況

当社グループでは、『必要な売上・利益の確保』を最重要課題と位置づけ、様々な取組みを実施いたしました。

営業体制の強化策として、営業本部を新設し、営業体制の拡充に努め、新規顧客の獲得や既存顧客との取引拡大に積極的に取り組みました。また、ローコストオペレーションを推進させたことにより、生産性が向上し、売上原価の削減につながりました。管理体制の強化策として、グループ全体の経営資源の効率的な活用に取り組むとともに、各種経費の見直しを行い、収益率の向上に努めました。

倉庫業では、数年来取り組んでいる倉庫施設のスクラップ・アンド・ビルドの一環として、昨年5月に東京支店上尾営業所（埼玉県上尾市）を閉鎖し、本年3月に名古屋支店南営業所中川倉庫（愛知県名古屋市）の一部を取り壊すと同時に、名古屋支店港営業所（愛知県海部郡）において、賃借倉庫面積を拡大いたしました。陸上運送業では、環境に優しい物流として取り組んでいるバルクコンテナ（粒状貨物専用）輸送の取扱量の拡大に努めました。また、本年1月に成長著しいベトナムに海外では11番目となる現地法人を設立いたしました。

以上の取組みの結果、総合物流事業におきましては、倉

庫業では、期中平均保管残高は前期に比べ減少し、貨物入出庫数量は第3四半期以降、増加傾向にはあるものの、前期に比べ若干減少しました。一方、貨物回転率は前期を上回りました。港湾運送業では、四日市港における海上コンテナの取扱量は、第2四半期以降回復し、前期に比べ増加しました。陸上運送業では、バルクコンテナ輸送は堅調に推移し、主力のトラック輸送の取扱量は、第3四半期以降、増加傾向にあるものの、前期に比べ若干減少しました。国際複合輸送業では、海上輸送・航空輸送の取扱量は、前期に比べ増加しました。

その他の事業では、前期に引き続き、効率化や収支改善に努めてまいりました。

以上の結果、当期の連結売上高は、全般的に第3四半期以降、荷動きが改善傾向にあるものの、本格的な回復には至っていないことから、前期比7.3%減の764億4千5百万円となり、連結経常利益は、生産性向上や各種経費削減に取り組んだ結果、前期比40.3%増の35億6千万円となりました。さらに、連結当期純利益は、前期比43.0%増の20億7千7百万円となりました。

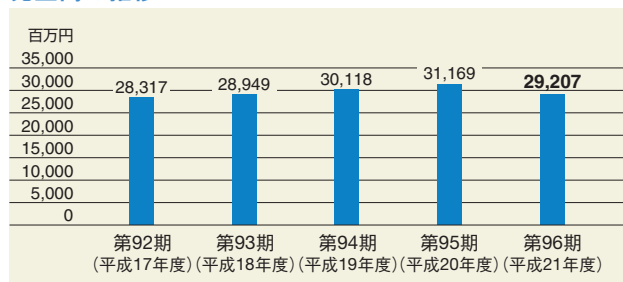
## 総合物流事業

### 倉庫業

当部門におきましては、期中平均保管残高は前期比11.0%減の44万6千トンと大幅な減少となり、期中貨物入出庫トン数につきましても前期比1.5%減の592万5千トンと減少しました。一方、保管貨物回転率は、55.3%（前期50.0%）となりました。また、物流加工業務の取扱量は消費財を中心に堅調に推移しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前期比6.3%減の292億7百万円の計上となりました。

### 売上高の推移



今般、東海団地倉庫株式会社の株式を追加取得し、本年3月末より同社が持分法適用会社となりました。これにより、名古屋支店港営業所西四区倉庫では、倉庫面積が増加しました。  
(倉庫延床面積：  
2,868坪 → 5,711坪)

### 倉庫保管貨物取扱量

|        | 数量(トン)    | 金額(百万円) |
|--------|-----------|---------|
| 前期 繰越高 | 491,554   | 110,844 |
| 当期 入庫高 | 2,939,676 | 920,861 |
| 当期 出庫高 | 2,985,884 | 923,697 |
| 当期 末残高 | 445,346   | 108,007 |

## 港湾運送業

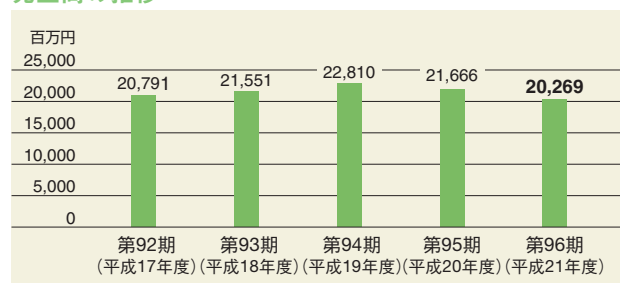
当部門におきましては、四日市港における輸入原料（石炭・コークス等）や輸出完成自動車の取扱いは減少したものの、海上コンテナの取扱量は前期比6.3%増の19万2千本（20フィート換算）となりました。

以上の結果、当部門の売上高は、前期比6.4%減の202億6千9百万円の計上となりました。



「四日市港霞ヶ浦北埠頭コンテナターミナル」では第2期工事が終了し、本年4月より拡張部分が供用開始となりました。拡張に伴い、「トランスファークレーン」を1基追加し、全6基による作業を行っております。

### 売上高の推移



### 港湾運送貨物取扱量

|             | 当期(トン)     | 前期(トン)     |
|-------------|------------|------------|
| 船内荷役        | 11,450,621 | 13,126,477 |
| 沿岸荷役        | 5,141,937  | 7,279,337  |
| (海上コンテナ取扱*) | (192,123)  | (180,659)  |

\* 四日市港における実入りおよび空コンテナの揚積み数量（20フィート換算）

## 陸上運送業

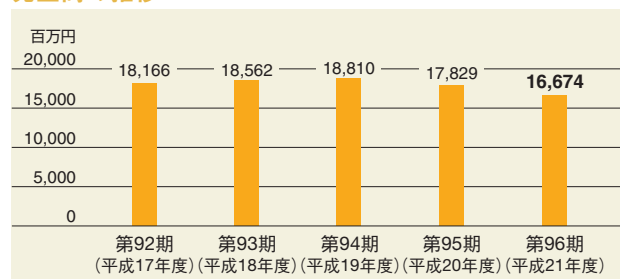
当部門におきましては、貨物自動車運送の取扱量は、前期比0.9%減の730万トンとなりました。バルクコンテナ輸送にかかる取扱量は順調に増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前期比6.5%減の166億7千4百万円の計上となりました。



長距離のトラック輸送は、フェリーを活用することにより、環境への配慮やドライバーの負担軽減に努めております。

### 売上高の推移



### 陸上運送貨物取扱量

|         | 当期(トン)    | 前期(トン)    |
|---------|-----------|-----------|
| 貨物自動車運送 | 7,309,294 | 7,373,613 |
| 鉄道利用運送  | 306,188   | 324,428   |

## 国際複合輸送業・その他

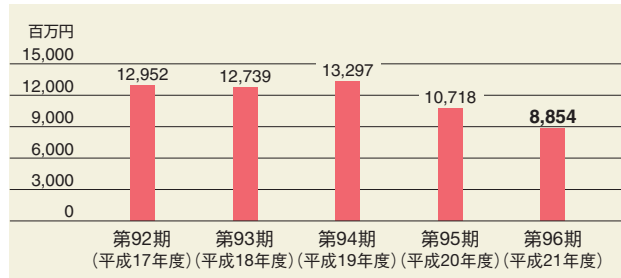
当部門におきましては、海上輸送における取扱量は前期比6.0%増の110万7千トンとなり、航空輸送における取扱量は前期比65.6%増の2千430トンとなりましたが、海上運賃や為替の変動が大きく影響しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前期比17.4%減の88億5千4百万円の計上となりました。



写真はベトナムホーチミン港。当社では、物流ネットワークの強化による業容拡大のため、本年1月、ベトナムに現地法人を設立いたしました。

### 売上高の推移



### 国際複合輸送貨物取扱量

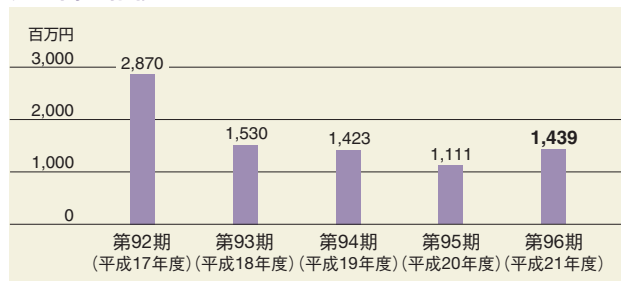
|          | 当期(トン)            | 前期(トン)            |
|----------|-------------------|-------------------|
| 海上輸送貨物取扱 | 1,107,632         | 1,044,999         |
| 航空輸送貨物取扱 | 2,430<br>(7,528件) | 1,467<br>(5,401件) |

## その他の事業

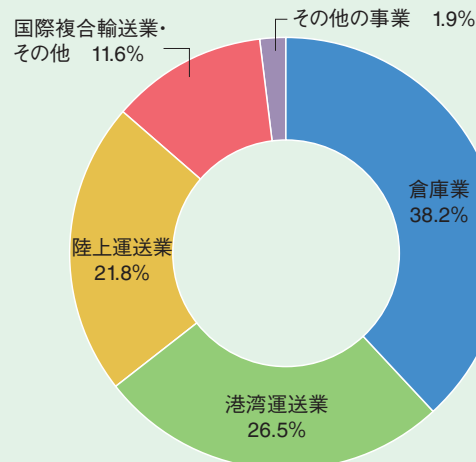
自動車整備業は、車検取扱台数が前期比2.5%増加し、ゴルフ場の入場者数は、前期比6.4%減少しました。一方、建設業におきまして、大型工事が第4四半期に完成いたしました。

以上の結果、当部門の売上高は、前期比29.5%増の14億3千9百万円となりました。

### 売上高の推移



### 事業セグメント別売上高比率





当社の主要拠点である四日市港では、平成18年に「四日市港霞ヶ浦北埠頭コンテナターミナル」が供用開始となり、平成21年より第2期拡張工事が進められておりましたが、今般、工事が終了し、本年4月より拡張部分が供用開始となりました。

今回は、「四日市港霞ヶ浦北埠頭コンテナターミナル」につきまして、ご紹介いたします。

### 北埠頭拡張前後の比較

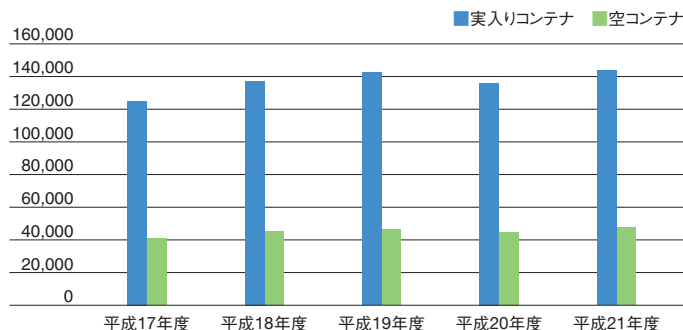


|                     | 拡張前       | 拡張後        |
|---------------------|-----------|------------|
| 面積                  | 85,000㎡   | 136,000㎡   |
| スロット数*1             | 1,600スロット | 2,500スロット  |
| 最大取扱数量（年間）          | 90,000TEU | 150,000TEU |
| 荷役機器（RTG*2/トップリフター） | 5台/2台     | 6台/3台      |

※1 コンテナヤードに20フィートコンテナを平置きした場合に何層設置できるかを表す。

※2 タイヤ式門型クレーン。トランスファークレーン、トランスターともいう。

### 四日市港における取扱コンテナ本数の推移



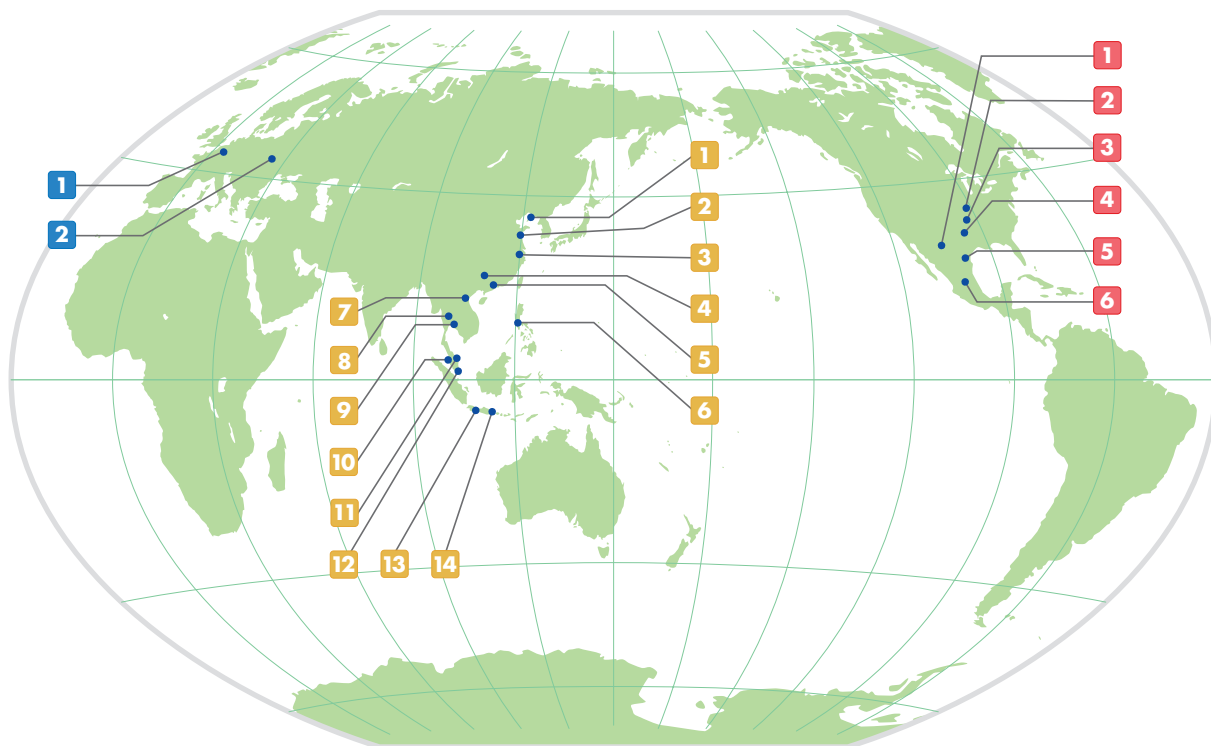
### 新コンテナターミナルビル



四日市港におけるコンテナ貨物取扱量は、一昨秋からの不況にも関わらず堅調に推移しております。今後も、四日市港の利用促進活動に継続して取り組み、更なる取扱増加を目指してまいります。







## ヨーロッパ地域

- 1** デュッセルドルフ(ドイツ)
- 2** プラハ(チェコ)

## 中国・東南アジア地域

- 1** 大連(中国)
- 2** 青島(中国)
- 3** 上海(中国)
- 4** 深川(中国)
- 5** 香港(中国)
- 6** マニラ(フィリピン)
- 7** ハノイ(ベトナム)

- 8** バンコク(タイ)
- 9** レムチャバン(タイ)
- 10** クアラルンプール(マレーシア)
- 11** クアantan(マレーシア)
- 12** シンガポール
- 13** ジャカルタ(インドネシア)
- 14** スラバヤ(インドネシア)

## 北米・メキシコ地域

- 1** エルパソ(アメリカ)
- 2** メアリスビル(アメリカ)
- 3** シンシナティ(アメリカ)
- 4** レキシントン(アメリカ)
- 5** サンアントニオ(アメリカ)
- 6** アグアスカリエンテス(メキシコ)



連結損益計算書

単位：百万円  
(単位未満切捨)

| 科目           | 当期                            | 前期                            |
|--------------|-------------------------------|-------------------------------|
|              | (平成21年4月1日から<br>平成22年3月31日まで) | (平成20年4月1日から<br>平成21年3月31日まで) |
| 売上高          | 76,445                        | 82,496                        |
| 売上原価         | 67,665                        | 74,410                        |
| 売上総利益        | 8,780                         | 8,085                         |
| 販売費及び一般管理費   | 5,413                         | 5,767                         |
| 営業利益         | 3,366                         | 2,317                         |
| 営業外収益        | 659                           | 690                           |
| 営業外費用        | 465                           | 469                           |
| 経常利益         | 3,560                         | 2,538                         |
| 特別利益         | 20                            | 33                            |
| 特別損失         | 116                           | 172                           |
| 税金等調整前当期純利益  | 3,464                         | 2,399                         |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,073                         | 514                           |
| 法人税等調整額      | 292                           | 381                           |
| 少数株主利益       | 21                            | 50                            |
| 当期純利益        | 2,077                         | 1,453                         |

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円  
(単位未満切捨)

| 科目                   | 当期                            | 前期                            |
|----------------------|-------------------------------|-------------------------------|
|                      | (平成21年4月1日から<br>平成22年3月31日まで) | (平成20年4月1日から<br>平成21年3月31日まで) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー     | 5,063                         | 4,318                         |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー     | △3,108                        | △5,457                        |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー     | △1,814                        | 768                           |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額     | 35                            | △139                          |
| 現金及び現金同等物の増減額        | 175                           | △510                          |
| 現金及び現金同等物の期首残高       | 10,701                        | 11,142                        |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | —                             | 68                            |
| 現金及び現金同等物の期末残高       | 10,877                        | 10,701                        |

連結株主資本等変動計算書

単位：百万円

当期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）

(単位未満切捨)

|               | 株主資本  |       |        |      |        | 評価・換算<br>差額等 | 少数株主持分 | 純資産合計  |
|---------------|-------|-------|--------|------|--------|--------------|--------|--------|
|               | 資本金   | 資本剰余金 | 利益剰余金  | 自己株式 | 株主資本合計 |              |        |        |
| 平成21年3月31日残高  | 8,428 | 6,734 | 20,932 | △941 | 35,154 | △1,730       | 1,021  | 34,444 |
| 連結会計年度中の変動額   |       |       |        |      |        |              |        |        |
| 剰余金の配当        |       |       | △552   |      | △552   |              |        | △552   |
| 当期純利益         |       |       | 2,077  |      | 2,077  |              |        | 2,077  |
| その他           |       | △0    |        | △2   | △2     | 244          | 0      | 242    |
| 連結会計年度中の変動額合計 | —     | △0    | 1,525  | △2   | 1,522  | 244          | 0      | 1,767  |
| 平成22年3月31日残高  | 8,428 | 6,734 | 22,457 | △943 | 36,676 | △1,486       | 1,022  | 36,212 |

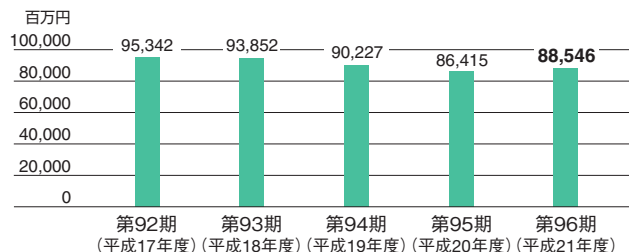
1 投資その他の資産

当社保有株式につきまして、若干、株価が回復したため、投資有価証券の評価額が増加しました。

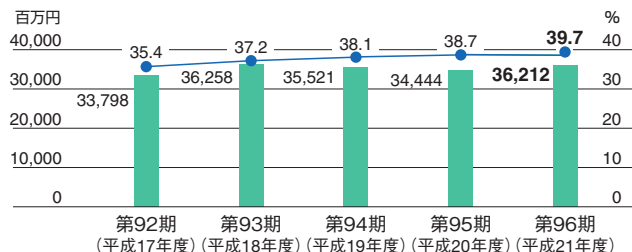
2 財務活動によるキャッシュ・フロー

社債の償還により15億円を、長期借入金の返済により20億7千2百万円をそれぞれ支出し、また、長期借入金20億円を資金調達しました。

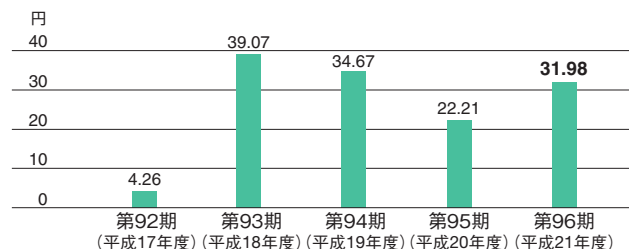
### □ 総資産



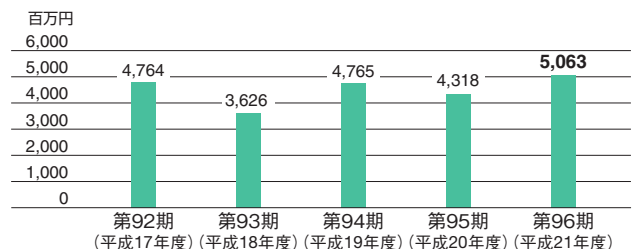
### □ 純資産・自己資本比率



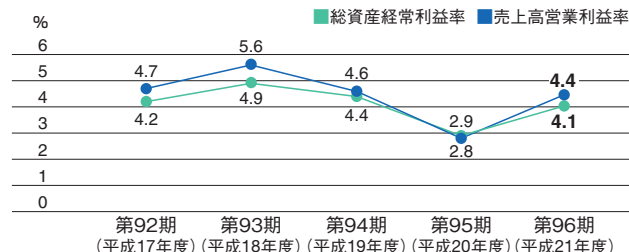
### □ 1株当たり当期純利益



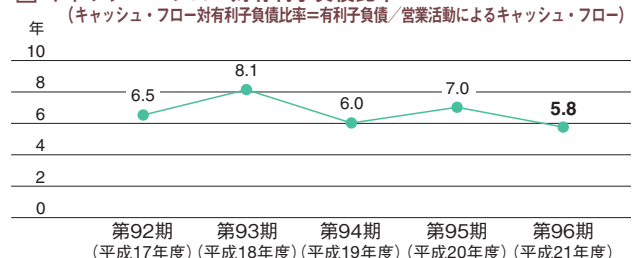
### □ 営業活動によるキャッシュ・フロー



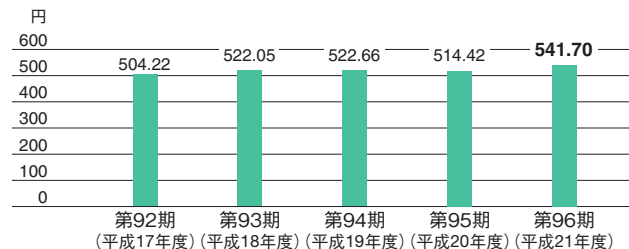
### □ 総資産経常利益率・売上高営業利益率



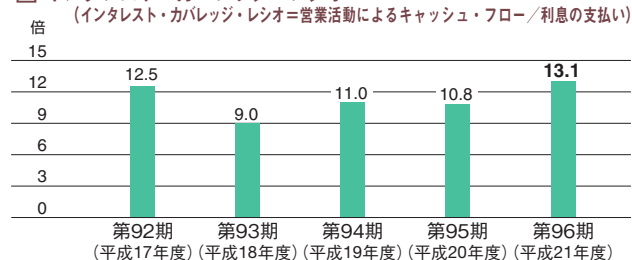
### □ キャッシュ・フロー対有利負債比率



### □ 1株当たり純資産



### □ インタレスト・カバレッジ・レシオ





|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 社名    | 日本トランスシティ株式会社               |
| 英文社名  | Japan Transcity Corporation |
| 創業    | 明治28年 7月12日                 |
| 設立    | 昭和17年12月28日                 |
| 資本金   | 8,428,059,616円              |
| 上場取引所 | 東京（第一部）、名古屋（第一部）            |
| 証券コード | 9310                        |
| 従業員数  | 2,032名（連結）<br>736名（単体）      |

## 事業目的

1. 倉庫業
2. 港湾運送業
3. 貨物自動車運送業
4. 貨物利用運送業及び代理業
5. 国際複合一貫輸送業及び代理業
6. 通関業
7. 不動産の売買、賃貸借及び管理業
8. その他

## 主要な事業所

|         |           |  |
|---------|-----------|--|
| 本社      | 〒510-8651 | 三重県四日市市千歳町6番地の6<br>電話 059-353-5211（代表） |
| 中部支社    | 〒510-0011 | 三重県四日市市霞二丁目1番地の1 四日市港ポートビル             |
| （名古屋支店） | 〒450-0003 | 名古屋市中村区名駅南一丁目16番28号 NOF名古屋柳橋ビル）        |
| 関東支社    | 〒108-0074 | 東京都港区高輪三丁目23番17号 品川センタービルディング          |
| （東京支店）  | 同         | 上）                                     |
| （国際営業部） | 同         | 上）                                     |
| 関西支社    | 〒541-0054 | 大阪府中央区南本町三丁目6番14号 イトウビル                |
| （大阪支店）  | 同         | 上）                                     |
| 運輸事業部   | 〒510-0052 | 三重県四日市市末広町8番10号                        |
| （鹿島支店）  | 〒314-0252 | 茨城県神栖市柳川4123番地）                        |
| SCM事業部  | 〒510-8651 | 三重県四日市市千歳町6番地の6                        |
| 海外事業統括室 | 〒510-8651 | 三重県四日市市千歳町6番地の6                        |

## 役員

|            |        |
|------------|--------|
| 代表取締役社長    | 小林 長久  |
| 代表取締役社長    | 白井 勇   |
| 代表取締役専務取締役 | 小津 勝   |
| 代表取締役専務取締役 | 高橋 典夫  |
| 常務取締役      | 美濃部 義昭 |
| 常務取締役      | 瀬 瀬 英治 |
| 常務取締役      | 古井 直樹  |
| 常務取締役      | 八代 雅秀  |
| 常務取締役      | 小川 謙   |
| 取締役        | 国分 一美  |
| 取締役        | 北川 譲治  |
| 取締役        | 平子 隆生  |
| 取締役        | 山北 淳   |
| 取締役        | 平野 理   |
| 取締役        | 小菅 能正  |
| 監査役(常勤)    | 南川 宣久  |
| 監査役(常勤)    | 太田 重和  |
| 監査役(常勤)    | 須田 英一  |
| 監査役        | 綿貫 繁夫  |
| 監査役        | 伊藤 吾郎  |

\* 監査役 須田英一、監査役 綿貫繁夫、監査役 伊藤吾郎の3氏は社外監査役であります。



### 株式の状況

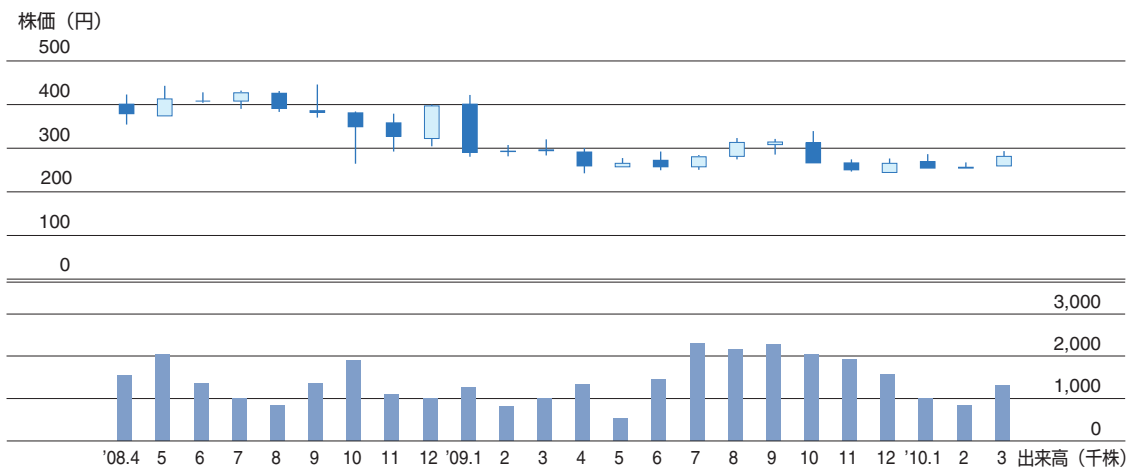
|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 240,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 67,142,417株  |
| 株主数      | 5,018名       |

### 大株主 上位10名

| 株主名                       | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---------------------------|---------|---------|
| 明治安田生命保険相互会社              | 4,000   | 6.2     |
| 東京海上日動火災保険株式会社            | 3,564   | 5.5     |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行             | 2,993   | 4.6     |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 2,946   | 4.5     |
| 株式会社百五銀行                  | 2,683   | 4.1     |
| 株式会社三重銀行                  | 2,668   | 4.1     |
| 日本トランスシティ社員持株会            | 2,640   | 4.1     |
| 蒼栄会                       | 2,424   | 3.7     |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)   | 2,365   | 3.6     |
| 株式会社みずほコーポレート銀行           | 1,848   | 2.8     |

\*持株比率は、自己株式(2,178,599株)を控除して計算しております。

### 株価および出来高の推移 東京証券取引所



## 株式についてのご案内

|              |   |
|--------------|---|
| 事業年度         | 4月1日から翌年3月31日まで   |
| 定時株主総会       | 毎年6月  |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日   |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日   |
| 株主名簿管理人      |   |
| 特別口座の口座管理機関  | 三菱UFJ信託銀行株式会社   |
| 同連絡先         | 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部<br>〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>TEL 0120-232-711 (通話料無料)   |
| 公告の方法        | 電子公告により行います。<br>公告掲載URL <a href="http://www.trancy.co.jp">http://www.trancy.co.jp</a><br>(ただし、電子公告によることができない事故、<br>その他のやむを得ない事由が生じた時には、<br>日本経済新聞に公告いたします。) |

### ホームページのご案内

当社ホームページでは、プレスリリースの内容や決算情報等を掲載しておりますので、ご活用ください。

<http://www.trancy.co.jp>



### (見直しに関する記述等についてのご注意)

この報告書に記載されている業績予想や将来に関する記述等は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき合理的であると判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、様々な要因により見直しと大きく異なる可能性があります。

## 日本トランスシティ株式会社

〒510-8651 三重県四日市市千歳町6番地の6  
TEL 059-353-5211 FAX 059-353-4370

## 株式に関するお手続きについて

### 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様

お手続き内容 住所変更、名義変更、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金受取方法のご指定等

お問い合わせ先 口座を開設されている証券会社等  
(口座管理機関)

### 特別口座に記録されている株主様

お手続き内容 住所変更、名義変更、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金受取方法のご指定、特別口座から証券会社等の株主様口座への振替請求等

お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
(特別口座の口座管理機関)

\*三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店でもお手続きできます。

\*特別口座では株式の売却はできません。売却する場合、証券会社等に口座を開設し、株式を振り替えていただくこととなります。

### すべての株主様

お手続き内容 未受領の配当金のお支払い

お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部  
(株主名簿管理人)

\*三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店でもお手続きできます。



この報告書は「再生紙」と環境に配慮した「植物油インキ」を使用しております。